

カ
ネ
カ
ガ
ク
で
ネ
ガ
イ
を
カ
ナ
エ
ル
会
社

カネカは実験カンパニー

kaneka

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第99期 中間報告書

2022年4月1日 - 2022年9月30日

株式会社 **カネカ**

カネカは世界を健康にする。

KANEKA thinks “Wellness First”.

カネカは、地球の命に心を寄せ、食べ物を健やかにする、
人間や動物を元気にする、ビジネスに活気を与える、
そして社会を明るくする。

この世界を「健康」にしていくために。

カネカは、ますますカガクにできることを広げ、
さまざまなソリューションを通じて、社会と人々の
願いをかなえていきます。



カネカは命を育む社会を支えます。

トップメッセージ



代表取締役 社長

田中 稔

株主のみなさまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。2022年度上半期の業績および今後の見通しについてご説明申し上げます。

➤ 世界経済の状況 ー先行きの不透明感が広がるー

当上半期の世界経済は、コロナ感染による社会影響が緩和に向かう一方、ウクライナ情勢の混迷、エネルギー・原材料価格の高騰と下落、世界的なインフレの加速と金利上昇による景気減速、大幅な円安進行など不安定な情勢で推移しました。

➤ 当社グループの業績 ー先端事業群が伸長し、経常利益・四半期純利益増ー

このような状況のなか、当社グループの上半期の業績は、売上高3,806億円(前年同期比15.2%増)、営業利益208億円(前年同期比9.6%減)、経常利益225億円(前年同期比7.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益166億円(前年同期比12.2%増)となりました。

第2四半期に入って世界経済の減速感が強まるなか、当社はVinyls、MODやE&Iが市場の需給調整や市況下落の影響を受けました。そのなかでも先端事業群(Health Careなど)は、独自の差別化技術による市場拡大が進み、順調に業績を伸ばしました。事業ポートフォリオ変革は着実に進んでいます。

➤ 今後の見通し

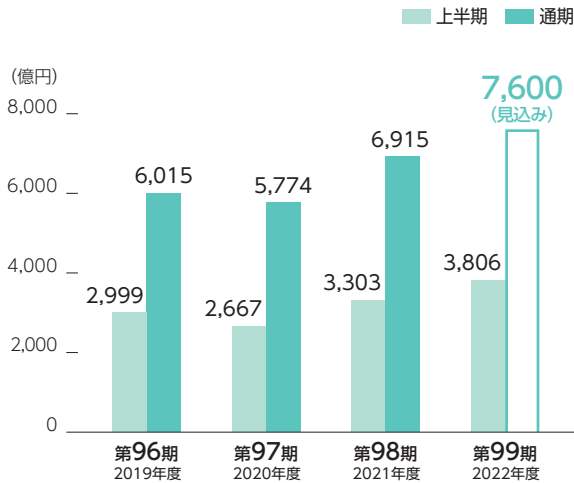
IMFは、本年7月に2022年世界GDP成長率の見通しを3.2%へ引き下げ、10月には2023年の見通しを2.7%に引き下げました。EU圏や米国の経済減速をはじめ中国・アジアの景気後退が表面化してきており、世界経済は全体として後退感が強まると考えられます。

コロナ禍やウクライナ危機など先の読めない時代が続きますが、私たちカネカグループは化学により世界を健康にするためのさまざまな技術のネットワークによるハイブリッド経営を追求してまいります。

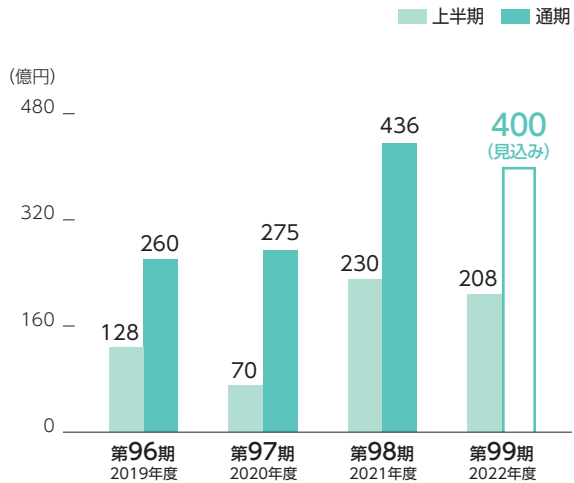
中間配当金につきましては、1株あたり55円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結業績ハイライト（推移/2022年度上半期および通期見込み）

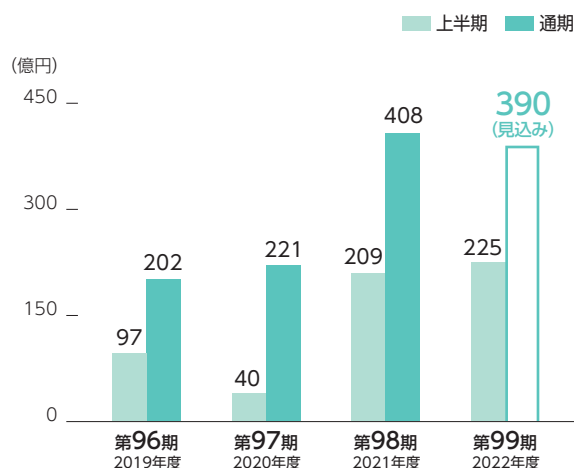
▶ 売上高



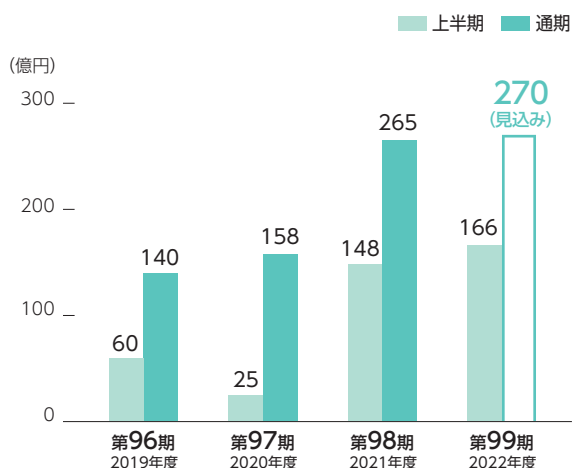
▶ 営業利益



▶ 経常利益



▶ 親会社株主に帰属する当期純利益

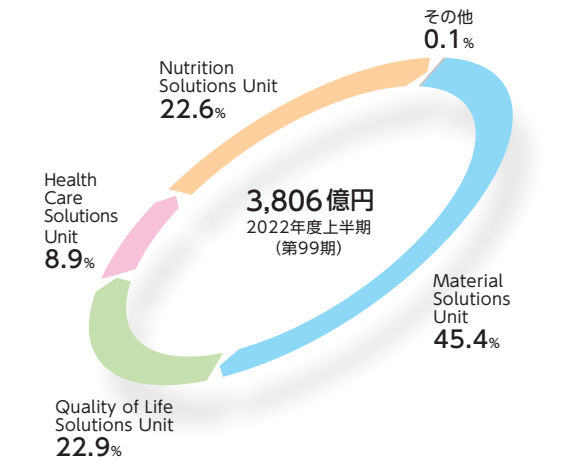


セグメント別概況（2022年度上半期）

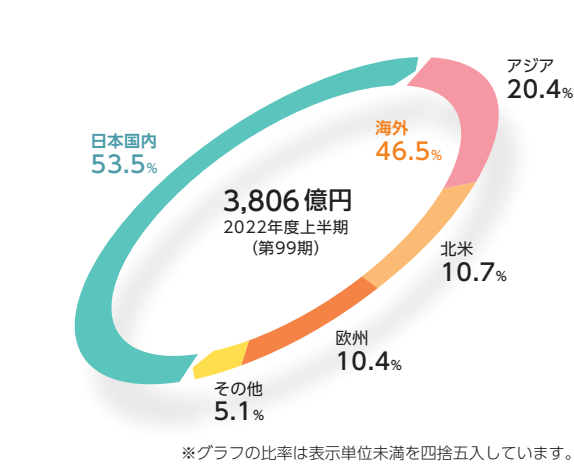
▶ セグメント別売上高・営業利益 (単位: 億円)

	売上高		営業利益	
	2022年度上半期 (第99期)	前年同期比	2022年度上半期 (第99期)	前年同期比
Material Solutions Unit	1,729	320 (22.7%)	187	7 (4.1%)
Quality of Life Solutions Unit	872	45 (5.4%)	87	△7 (△7.0%)
Health Care Solutions Unit	340	74 (27.7%)	75	23 (43.0%)
Nutrition Solutions Unit	860	65 (8.2%)	21	0 (0.8%)
その他	5	0 (0.5%)	3	0 (12.5%)
調整額	—	—	△165	△46 (—)
計	3,806	503 (15.2%)	208	△22 (△9.6%)

▶ セグメント別売上高構成比



▶ 地域別売上高構成比



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

各Solutions Unitの詳細は次のページをご確認ください。▶

セグメント別概況

Earthology Chemical Solution／持続的で快適な生活環境を創造する

Material Solutions Unit

Material Value Creator

素材の豊かさを引き出し生活と環境の進化を支える

前年を上回り、増収増益

- Vinylsは、塩ビのアジアスポット市況が第2四半期より軟化したものの、か性ソーダが業績を牽引し前年を上回る実績となりました。今後はアジア市場の需給調整がカギです。
- MODは、第2四半期に欧米の住宅向け硬質塩ビ用途にプレーキがかり第2四半期累計としては前年を下回りました。非塩ビ用途の開発、R&B活動を強化しています。
- MSIは、引き続きシーリング材・接着剤用途向けの販売が堅調に推移し、前年並みの実績となりました。着実に成長が期待されるSVであることからベルギーでの能力増強を8月に決定し、本年度末に次の能力増強を検討しています。
- カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®は、日欧米の大手ブランドホルダーとの共同開発が順調に進んでいます。国の重点政策「バイオものづくり」の社会実装に向け、水素酸化細菌によりCO₂と水素からGreen Planet®を生産する革新技術の研究開発に鋭意取り組んでまいります。

Quality of Life Solutions Unit

Quality of Life Pathfinder

素材の力で生活価値の先端をプロデュースする

E&Iの需給調整の影響を受け、増収減益

- Foamは価格改定に注力しました。国内需要は第1四半期を底に着実に回復しています。海外については自動車分野が半導体等のサプライチェーンの混乱が続いており、回復が遅れています。
- 原油・石炭の高騰に始まり、エネルギー危機(電力不足)が世界的に表面化しています。そのことを背景に当社のPVへの引き合いが高まっています。東京都の「2030年カーボンハーフ」に向けたPV設置義務化等の政策的な動きが全国的に広がり、住宅向け高効率太陽電池の販売が拡大しています。ヘテロジャンクションPVの増産の決定をしました。PV設置による自己託送などCO₂削減に寄与する取り組みも積極的に進めています。
- E&Iは、スマートフォン市場、大型テレビ市場のサプライチェーン全体の需給調整の影響を大きく受け、業績は前年を下回りましたが、今後の市場拡大に向けてアクリルフィルム用樹脂の生産能力40%増強を決定しました。5G、フレキシブルディスプレイ、画像センサー部品などの市場を先回りしたカネカならではの新しい製品開発に注力しています。
- Fiberは、前年並みの業績となりました。頭髮製品は今後のインフレによる需要減が考えられますが、差別化新製品の投入により需要拡大を図ります。難燃資材向けはアジアでの販売が拡大しました。

Active Human Life Solution／健康で活力に満ちた人生を支える

Health Care Solutions Unit

Medical Edge Explorer

革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る

大幅な増収増益

- Medicalは主要業種である血液浄化器およびカテーテルの販売が国内外で順調に拡大し続けています。ベトナム工場の生産能力を3倍に増強しました。大市場である米国の販売体制の強化を着実に進め、Medical事業のグローバル展開を加速します。新型コロナPCR検査薬の生産を倍増しました。抗原検査キットも生産体制を拡大します。
- Pharmalは、カネカユーロジェンテックでのコロナワクチンなどバイオ医薬品CDMO事業が順調に拡大しています。事業基盤の拡大に向けてmRNA用生産設備の能力増強を準備中です。抗ウイルス薬新規大型案件や抗体医薬品精製用プロテインA担体の販売も業績に大きく寄与しています。

Nutrition Solutions Unit

Nutrition Value Chain Innovator

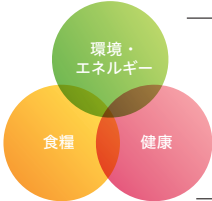
食と健康に革新をもたらす

第2四半期より回復し前年並み

- AB-Bioticsの乳酸菌事業の業績は大きく拡大しました。グローバル生産販売体制の強化を進めています。還元型コエンザイムQ10の生産がフルに近づいており、増産の検討を進めています。機能性表示食品の品揃えを強化しています。
- Foods & Agrislは、食品値上げ報道等による買い控えが広がっています。大型台風などの天候不良もありましたが、価格改定や高付加価値品の販売拡大により業績は回復しています。8月に新発売した機能性表示食品「わたしのチカラ® Q10ヨーグルト」「わたしのチカラ® Q10ヨーグルト ドリンクタイプ」は、市場・マスコミの評価が高く、販売が拡大しています。おいしさと健康をテーマとした商品を充実させてまいります。



特集：バイオものづくり



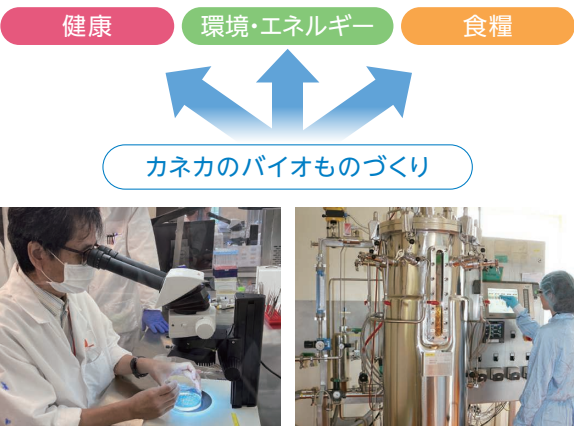
カネカの発酵・培養の技術を活かし、
さまざまな社会課題へソリューションを提供します。

カネカが培ってきた多彩な技術

社会の注目が高まるバイオものづくり

人類は古来より、発酵食品など、生物の持つ力をうまく利用してきました。近年、複雑な医薬品や素材を工業的に生み出す技術へと進化しています。加えて、生物の力を借りる発酵・培養プロセスは、高温処理などでエネルギーをたくさん使う化学プロセスとは異なるため、二酸化炭素排出量の削減も期待できる環境にも優しい生産技術で、注目が高まっています。

当社は、イースト菌などの発酵に端を発するバイオものづくり技術を、オープンイノベーションによる先進技術の導入や異分野の技術との融合によって磨いてきました。長年蓄積した技術で、今、多種多様なソリューションを提供しています。



バイオものづくりの広がり

細胞レベルから身体を健康にする還元型コエンザイムQ10



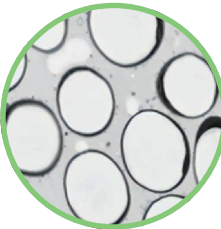
コエンザイムQ10は、細胞の中でエネルギーを作り出すミトコンドリアに働きかける成分です。旧来の酸化型に比べ、より効率的に吸収される還元型コエンザイムQ10は、有効な成分を高濃度で取り出す培養技術など、多様なバイオものづくり技術を結集させ、当社が世界で初めて量産を実現しました。世の中に製品を供給しながら新たに磨いた技術が、次のソリューションを提供する原動力となっています。

もっと地球を健康に ～進化する Green Planet® の製造技術～

カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®は、現在、植物油を原料としていますが、循環型社会の構築を目指して、廃食用油を原料として活用する製造技術の実証を進めています。さらに、水素酸化細菌を活用する技術開発を進め、二酸化炭素から直接、Green Planet®を生産する将来技術についても、工業化研究を開始しました。



Green Planet® 製品イメージ



Green Planet® を生産する微生物の顕微鏡写真



Green Planet® 製造プラント
廃食用油を原料とした製造や生産能力増強の検討が進む

食糧危機の解決に向けて

ゲノム編集技術を使って、有用な品種を開発して食糧危機の課題解決への貢献を目指しています。たとえば、青くさを改良した風味や食味の良い大豆や、病気に強い小麦などの開発に取り組んでいます。

当社は、長年にわたり培ってきた技術を進化させ、健康・環境・食糧の社会課題に対して、ソリューションを提供してまいります。



ゲノム編集作物のイメージ

トピックス

TOPICS 1

わたしのチカラ® Q10ヨーグルト 販売エリア拡大中(新製品)

お手軽なドリンクタイプをラインナップに追加

還元型コエンザイムQ10を配合した「わたしのチカラ® Q10ヨーグルト」の個食タイプとドリンクタイプをラインナップし、機能性表示食品として新たに発売しました。
一過性のストレスを感じている方に役立つ、3つの機能が認められています。



今年8月より、カネカオンラインショップや関東地区の一部コンビニエンスストアで先行販売し、各地のイベントなどでサンプリングを行っています。現在は、全国のスーパー・コンビニエンスストア・ベーカリー・一般小売店へと順次展開を進めています。
「カネカは世界を健康にする」という経営ビジョンのもと、今後も乳酸菌やサプリメント素材を組み合わせた機能性食品など、おいしさと健康をテーマにした商品を、さらに充実させてまいります。



知花くらさんのテレビCMも放映中!



©KASHIMA ANTLERS

カネカスペシャルマッチ KANEKA Go with Antlersでのサンプリングの様子

カネカオンラインショップ

<https://www.kaneka.co.jp/onlineshop/>

QRコードからもアクセスできます ➡



※睡眠の質の向上とは、ぐっすり眠れること、眠りが深いこと、睡眠中に目が覚めないことなどを指します。
※店舗によっては取り扱いのない場合がございます。
※食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
※本品は機能性表示食品です。特定保健用食品と異なり、消費者庁長官の個別審査を受けたものではありません。
※本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

TOPICS 2

カネカMSポリマー® 住宅・ビルの建築に活躍(能力増強)

欧州の省エネ住宅需要に、生産能力増強で対応

変成シリコンポリマー「カネカMSポリマー®」は、住居用の防水コーティングや内装・外装の接着剤、中高層ビルのシーリング材などには欠かせない製品です。
特に現在欧州では、省エネ住宅への改築助成や住居の断熱改修が促進されており、需要の伸長が見込まれています。カネカMSポリマー®を基材とした接着剤やシーリング材は、無溶剤・低温での作業性・耐候性などの特長があり、注目が集まっています。
日本・欧州・米国・マレーシアの4拠点で生産・供給していますが、欧州での旺盛な需要に対応するため、今年8月にベルギーでの生産能力増強を決定しました。
引き続き、住環境の快適さと地球環境への負荷低減に貢献してまいります。



(上) 出荷の様子 (下) 材質別の施工テスト

TOPICS 3

セメダイン株式会社の新しい出発(グループ力の強化)



身近な商品群



Performance Polymers (MS) SV事業の飛躍的發展を推進

今年8月、接着剤・シーリング材の有名ブランドを持つセメダイン株式会社(本社：東京都品川区、社長：天知秀介)は、カネカが100%出資する会社として、新しい出発をしました。ポリマー合成技術と配合・評価技術、双方の得意技術を組み合わせ、化学素材の無限の可能性を引き出してまいります。

TOPICS
4

3年ぶりのイベントに社員が集結、絆を実感 (ESG)

Run,Run,Run.Kaneka 2022に約2,400人が参加

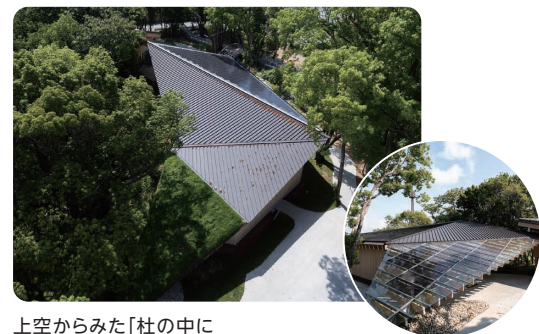
今年9月、新型コロナウイルスの流行で休止していたイベントを3年ぶりに開催しました。駅伝では約160チームがタスキを繋ぎ、参加者が全速力で走る姿や、以前と変わらない沿道からの応援に、あらためて人と人との絆を実感しました。

Solutions Unit対抗の障害物リレーでは、トラック上に置かれた障害物をチームでクリアし、笑顔あふれる競技となりました。次回は海外拠点のメンバーも含め、4,000人規模での開催を目指し、社員間の絆を実感できる場を積極的に設けてまいります。



TOPICS
5

元気に、イキイキと仕事に取り組む環境づくり (ESG)



上空からみた「杜の中に
溶け込む“大地の屋根”」

撮影：山内紀人

シーソー太陽電池を
設置した屋根の外観

高砂工業所に健康のマザーセンターを竣工

今年7月、健康経営のシンボル「KANeka Wellness Center 風の杜」を竣工しました。建築界の巨匠、隈研吾氏のデザインで、「杜の中に溶け込む“大地の屋根”」をコンセプトとして、人間と自然の共生・一体感を表しています。

ヘルスケア棟と多目的棟の2棟からなり、社員が楽しくアクティブに健康増進を体感できるリラクゼーションコーナーなど、さまざまな設備を設けました。また、太陽電池などの当社のソリューションを設置し、それらの情報発信拠点としても活用していきます。

今後、風の杜を当社の健康のマザーセンターと位置付け、Wellness推進活動に取り組んでまいります。

連結財務諸表

▶ 四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：億円)

科 目	第99期 2022年9月30日現在	第98期 2022年3月31日現在
	2022年9月30日現在	2022年3月31日現在
資 産		
流動資産	3,910	3,629
固定資産	3,845	3,640
資産合計	7,755	7,270
負 債		
流動負債	2,478	2,345
固定負債	937	803
負債合計	3,415	3,148
純 資 産		
株主資本	3,816	3,624
その他	524	498
純資産合計	4,340	4,122
負債純資産合計	7,755	7,270

Point

- **総資産**は、棚卸資産の増加等により前期末に比べて486億円増の7,755億円となりました。
- **負債**は、借入金の増加等により267億円増の3,415億円となりました。
- **純資産**は、利益剰余金や為替換算調整勘定の増加等により218億円増の4,340億円となりました。

▶ 四半期連結損益計算書 (要約)

(単位：億円)

科 目	第99期 2022年4月 1 日から 2022年9月30日まで	第98期 2021年4月 1 日から 2021年9月30日まで
	2022年4月 1 日から 2022年9月30日まで	2021年4月 1 日から 2021年9月30日まで
売上高	3,806	3,303
営業利益	208	230
経常利益	225	209
税金等調整前四半期純利益	225	209
親会社株主に帰属する四半期純利益	166	148

Point

- **売上高**は、前年同期に比べ503億円の増収(前年同期比15.2%増)となりました。
- **営業利益**は、前年同期に比べ22億円の減益(前年同期比9.6%減)となりました。
- **経常利益**は、前年同期に比べ16億円の増益(前年同期比7.8%増)となりました。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、前年同期に比べ18億円の増益(前年同期比12.2%増)となりました。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：億円)

科 目	第99期 2022年4月 1 日から 2022年9月30日まで	第98期 2021年4月 1 日から 2021年9月30日まで
	2022年4月 1 日から 2022年9月30日まで	2021年4月 1 日から 2021年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	104	201
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 210	△ 169
財務活動によるキャッシュ・フロー	37	△ 36
現金及び現金同等物の四半期末残高	352	464

Point

- **営業活動**によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により104億円の収入となりました。
- **投資活動**によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により210億円の支出となりました。
- **財務活動**によるキャッシュ・フローは、借入金の増加等により37億円の収入となりました。
- この結果、**現金及び現金同等物の当第2四半期末残高**は、352億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

企業データ

(2022年9月30日現在)

▶ 会社の概要

社 名 株式会社 **カネカ**
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028
東京都港区赤坂1丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL (03)5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288
(本店) 大阪市北区中之島2丁目3番18号
(中之島フェスティバルタワー)
TEL (06)6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

▶ 役員

代表取締役会長	菅原 公一
代表取締役社長	田中 稔
取締役副社長	藤井 一彦
取締役副社長	亀高 真一郎
取締役専務執行役員	石原 忍
取締役常務執行役員	泥 克信
取締役常務執行役員	榎 潤
取締役上級執行役員	角倉 護
取締役(社外)	井口 武雄
取締役(社外)	毛利 衛
取締役(社外)	横田 淳
取締役(社外)	笹川 祐子
監査役(常勤)	松井 英行
監査役(常勤)	岸根 正実
監査役(社外)	藤原 浩
監査役(社外)	魚住 泰宏

▶ 株式の状況

発行可能株式総数 150,000,000株

発行済株式の総数 68,000,000株

株主数 24,347名

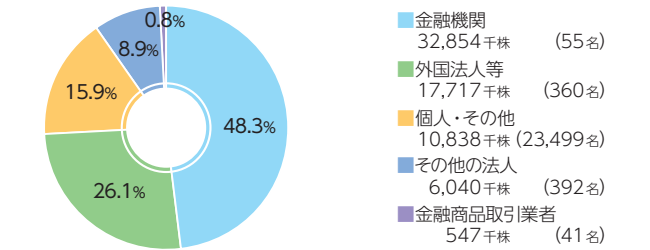
1人当たり平均持株数 2,793株

▶ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,616	11.37
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,188	4.76
日本生命保険相互会社	3,114	4.65
株式会社三井住友銀行	3,091	4.61
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.22
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	2,483	3.71
株式会社三菱UFJ銀行	2,308	3.45
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.14
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	1,818	2.71
カネカ取引先持株会	1,249	1.86

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。

▶ 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

株主様向けインフォメーション

▶ WEBサイトのご案内

株主・投資家のみなさまをはじめとするステークホルダーの方々に、より使いやすく、わかりやすく情報をお伝えしています。今後も内容の充実に取り組むとともに、適時適切な情報開示を行ってまいります。

▼トップページ



カネカ 検索

<https://www.kaneka.co.jp/>

▶ 株主メモ

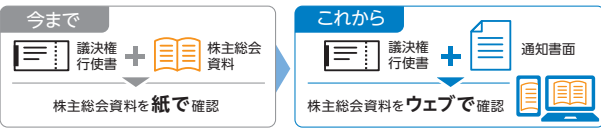
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告 https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合わせ先) TEL 0120-094-777 (通話料無料)

〈カバーアート〉アーティスト：曾谷朝絵
・タイトル：Topia
・制作年：2021年

ご確認ください!

▶ 株主総会資料の電子提供制度のお知らせ

会社法改正により株主総会資料の電子提供制度がスタート
2023年3月以降の株主総会から、株主総会資料(招集ご通知)が原則ウェブ化されます。株主のみなさまには、議決権行使書と一緒にお送りする通知書面に記載のURLからウェブサイトにアクセスし、株主総会資料をご確認いただきます。



インターネットの利用が困難な株主様へ
インターネットを利用することが困難な株主様は、**書面で受領するためのお手続き(書面交付請求)をいただくことで、株主総会資料を書面でお送りします。**なお、書面交付請求を行わなくても、URL等を記載した通知書面はお送りします。

書面交付請求の受付期限
株主総会の基準日(3月31日)までに
お手続きの完了が必要です。

詳細は、同封のリーフレットをご確認ください。



- (注) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。